

つどい

第17号

発行日：令和7年2月

こんにちは！野木町交流センター「野木ホフマン館」です。

今回の「つどい第17号」でお届けするのは、概ね次のとおりです。

- 野木ホフマン館の近況と事業
- 野木町煉瓦窯のおはなしその⑦
- 自然豊かな渡良瀬遊水地その⑯

【野木ホフマン館の近況と事業】

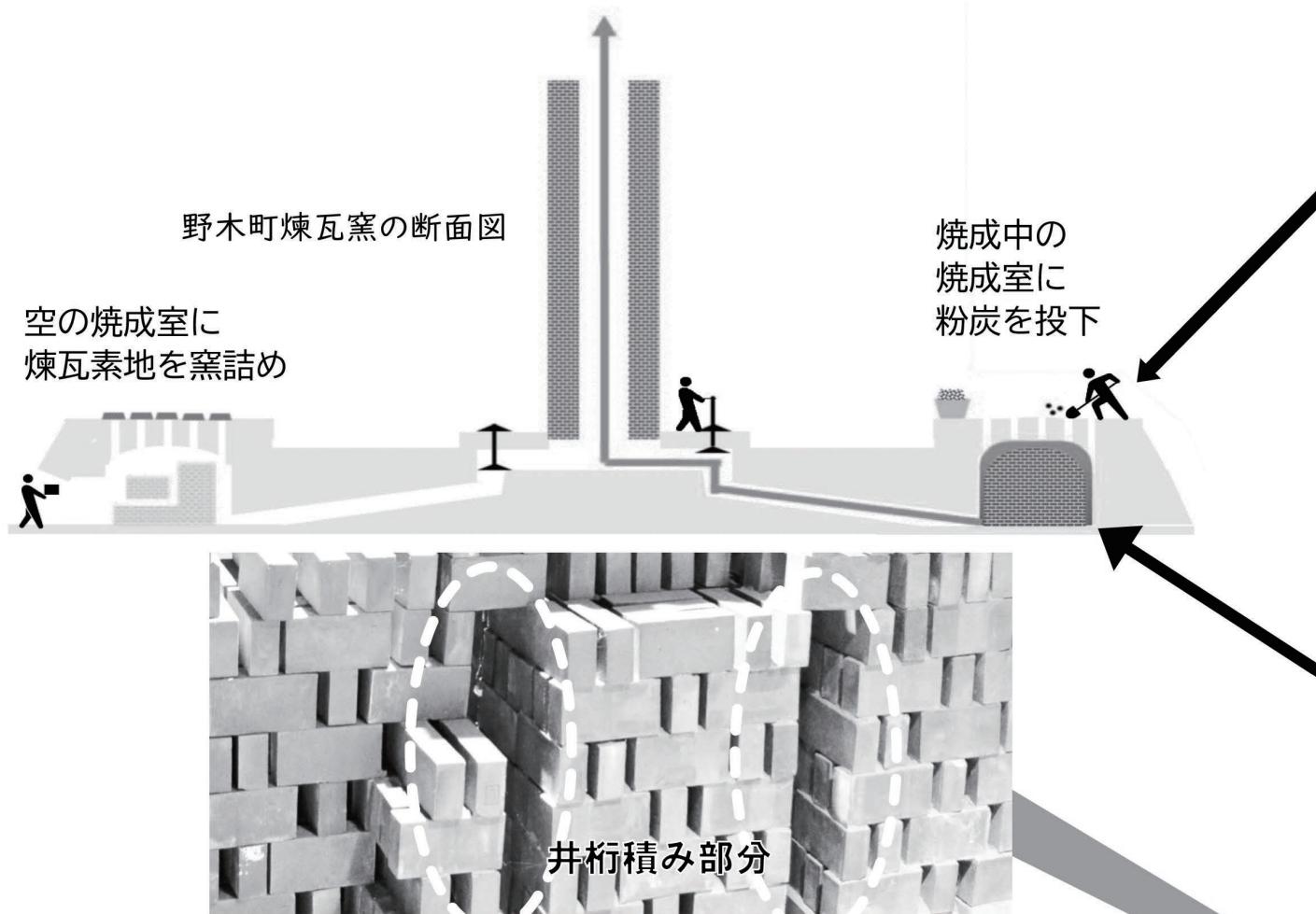
第7回「煉瓦窯秋フェスタ」10月19日（土）・20日（日）に実施しました。天候に恵まれ、県内外から多くの方に来場していただきました。今回の秋フェスタのメインイベントは、雅楽ユニット「雅楽バサラ」の3人の方の演奏会でした。多くの来場者が演奏に耳を傾け、聴き入っていました。煉瓦窯見学ツアー、各ワークショップ、模擬店等も賑わい、大変盛況でした。ご来場ありがとうございました。

ホフマン館敷地内のメタセコイア並木も11月中旬から紅葉が始まり、併せて11月15日（金）から12月1日（日）までの予定を延長して、12月8日（日）までライトアップをしました。多くの人が来館し、カメラ、スマホ等でメタセコイア並木を撮っていました。



野木町煉瓦窯のおはなし その⑯

現在、煉瓦窯1階の焼成室（13号窯）の中では、窯で煉瓦を焼くときの煉瓦素地（焼く前の煉瓦）の積みかたを再現しています。焼成室の床から天井近くまで煉瓦素地を積み上げ、2階から燃料を投下して煉瓦を焼きました。野木町煉瓦窯では、焼成室1つにつき約14,000個、窯全体で約220,000個の煉瓦を積み込んで焼くことができました。

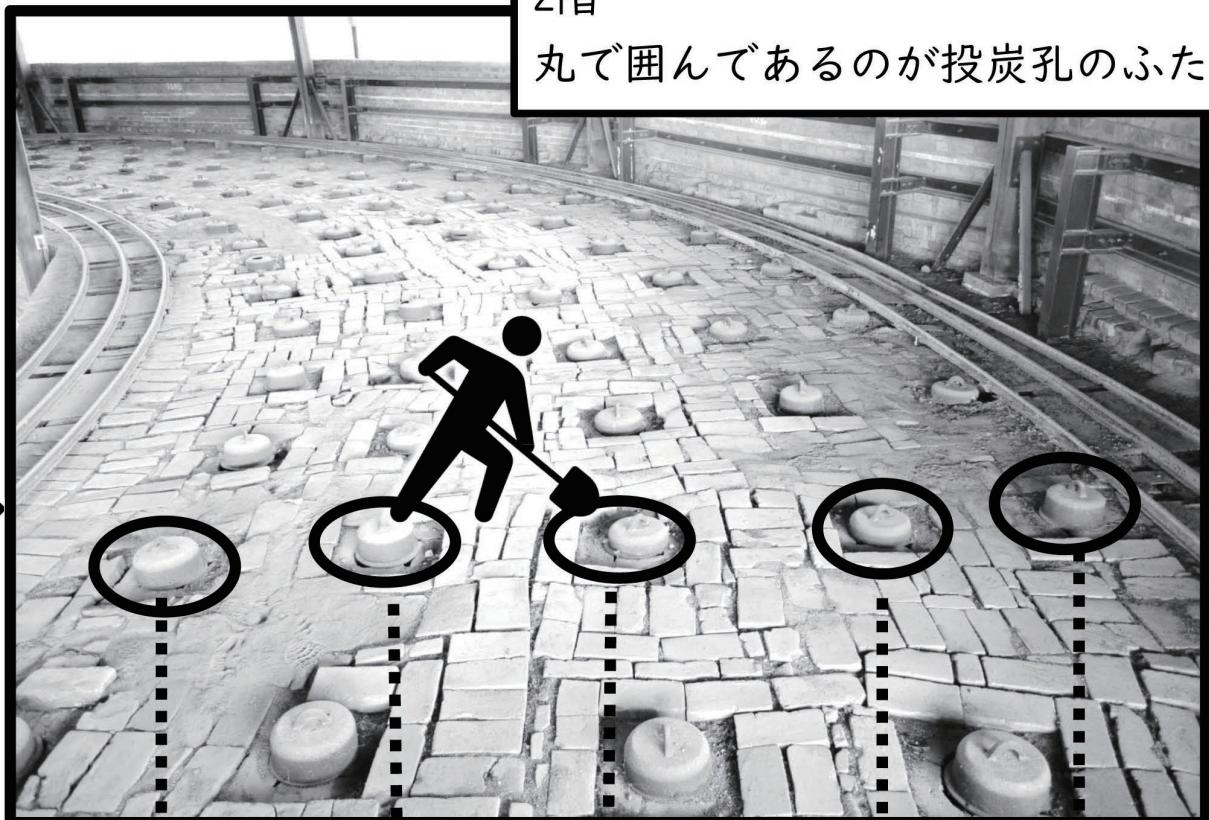


煉瓦素地を積むときは、煉瓦と煉瓦のあいだに隙間を少しあけて、焼きむらができたり、煉瓦同士がくっついたりするのを防ぎます。井桁積みにして、隙間を広めにしている部分もあります。これは、2階から落とした燃料（粉炭）が、煉瓦素地積みの上から下まで全体にいきわたるようにするために、天井にある穴（投炭孔。ここを通して粉炭を落とす）の位置に合わせてあります。

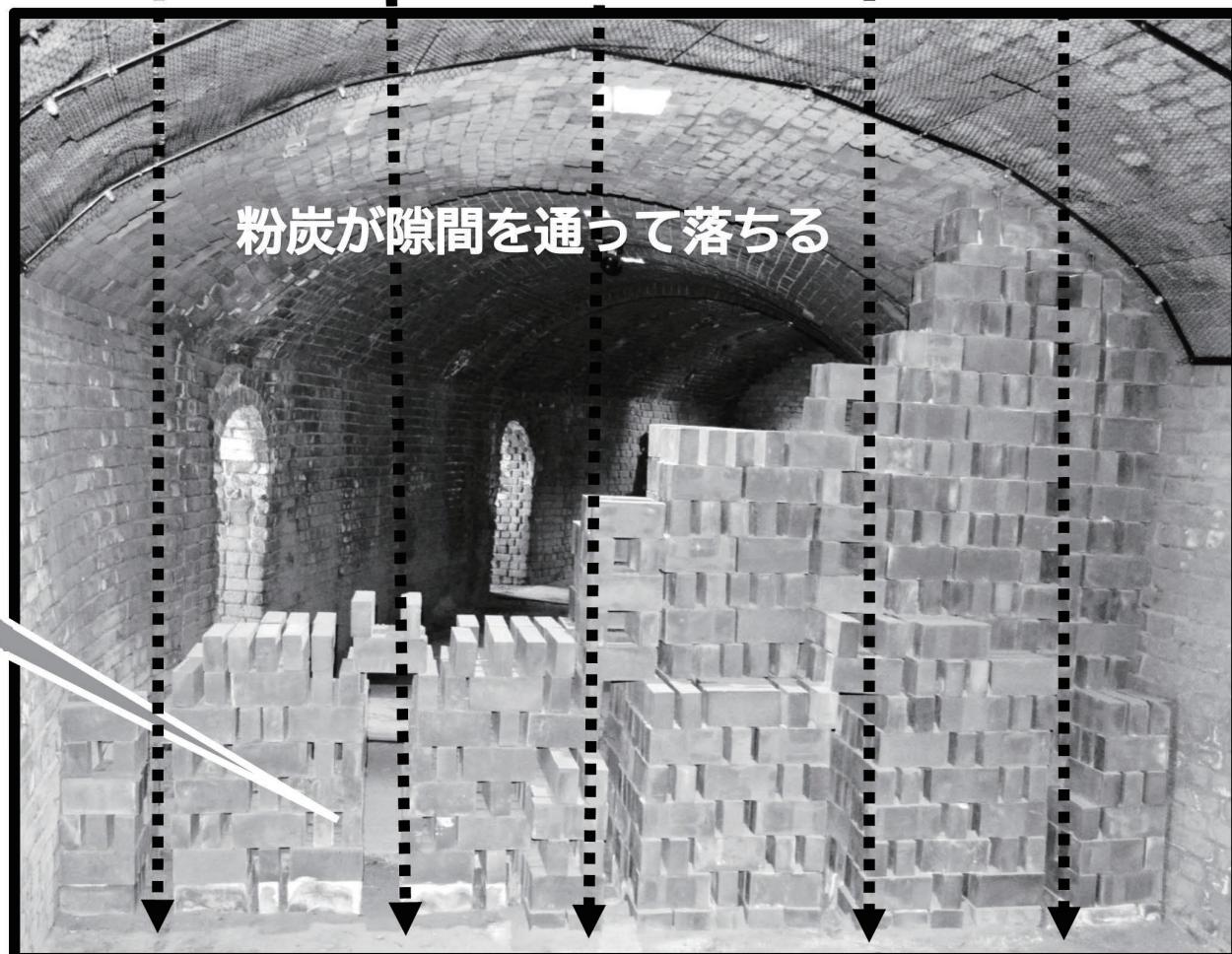
野木町煉瓦窯の操業中、煉瓦素地の積み上げを含む窯の中での作業は、人力でおこなっていました。

2階

丸で囲んであるのが投炭孔のふた



粉炭が隙間を通して落ちる



1階

煉瓦は焼成室いっぱいに積まれた

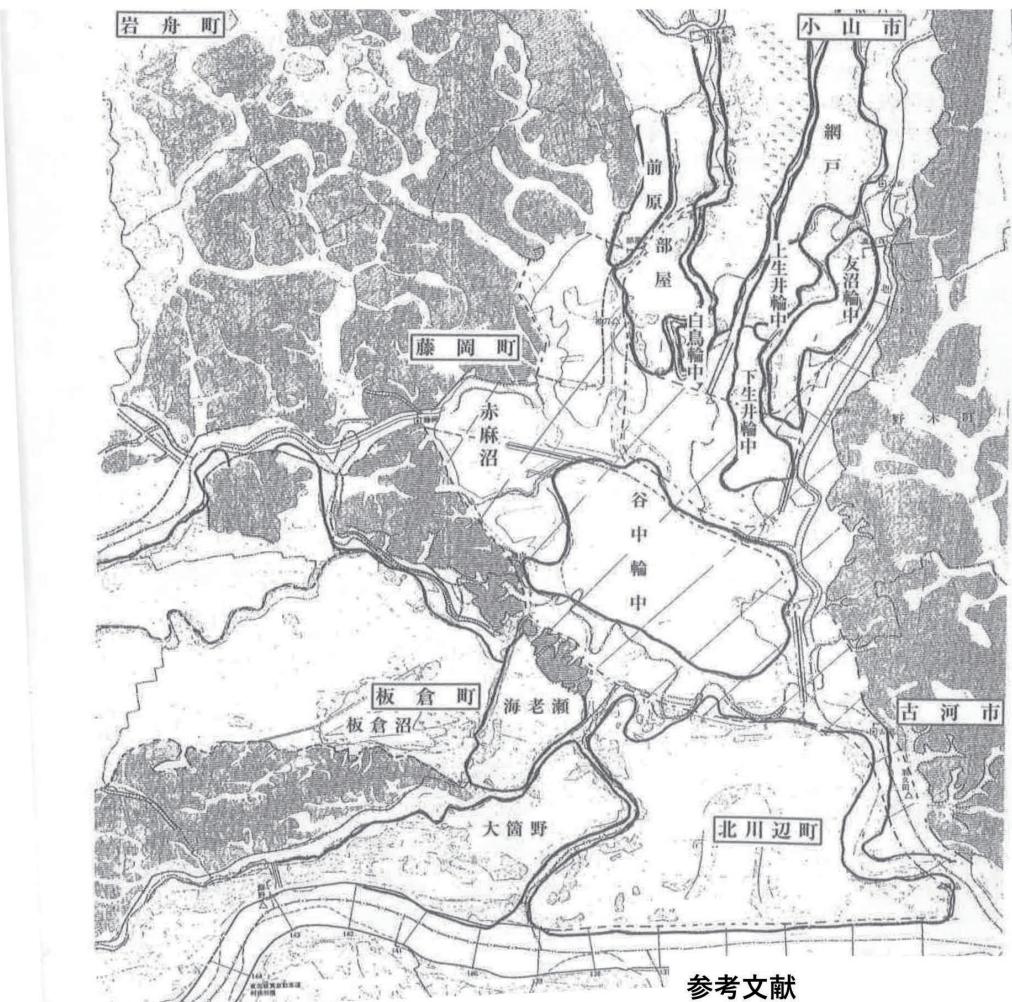
自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑯

水害常習地帯の「生活の知恵」

2. 輪中(わじゅう)

輪中とは、1個若しくは数個の集落がその周囲に堤防を円状に造り、水害に備えた共同体のことであります。堤防を輪のように築造し、その中で人々が生活することから輪中と言い、堤防により守られる側を堤内地と呼びます。輪中は円状に囲んで堤防が造られており、水を媒体とした運命共同体であり、その団結は強く、渡良瀬遊水地周辺にも谷中輪中を始め多くの輪中が存在していました。

●輪中分布図



参考文献

「渡良瀬遊水地の時」より

渡良瀬遊水地の近況

ホフマン館北側道路から渡良瀬遊水地への道路が陥没して、通行止めになり、野渡橋を通って渡良瀬遊水地へ行くには迂回路を通して行くようになっています。冬には多くの渡り鳥が飛来しますので少し残念です。多種の水鳥、チュウヒやコミミズクなどが見られます。野鳥の宝庫・渡良瀬遊水地に出かけませんか。

野木町交流センター

(野木ホフマン館)

開館日：火曜日～日曜日

9:00～18:00

(国民の祝日開館、翌平日閉館)

〒329-0114

野木町大字野木3324-10

☎ 0280-33-6667